

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

志の高いリーダーを育成する学校
「世のため人のため、世界のため」という社会貢献意識を強くもち、気品に溢れる、情操豊かな生徒を育て、その進路実現を叶える学校
めざす学校像を示す4つのキーワード
1 「心を鍛える」…生徒が互いに励ましあい支えあいながら切磋琢磨し成長できる学校
2 「知を究める」…グローバル社会で活躍できる高い学力をつける学校
3 「人と繋がる」…互いの違いを認め合う豊かな人間性を醸成する学校
4 「将来を描く」…将来にわたる社会との繋がりを描き、社会的貢献できる人材を育成する学校

2 中期的目標

1 グローバル社会を生き抜く高い学力の育成

- (1) 生徒自身が学力向上のプロセスと進捗を確認できるツールの活用。
ア 「模試振り返りシート」・「ポートフォリオ」を活用した PDCA サイクルによる学力の向上。
イ 学力定着度を測るための指針としての全国模試の活用。
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H30:44.0% R1:78.1% R2:80.3%→R5:80%超維持)
- (2) 教員の授業力の向上
ア 授業力向上プロジェクトチーム (JKP) を活用し、「主体的・対話的で深い学び」を推進することで読解力・思考力・表現力を育成する。
イ 生徒による授業評価の活用。教員の公開授業、研究授業を含めた校内研修の推進。外部者への授業公開。
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H30:81.9% R1:82.3% R2:83.3%→R5:80%超維持)
- (3) 泉陽プレミアム (課外講習・補習)・泉陽プレミアム+ (3年進学講習) の組織的な実施。
ア 各教科・進路指導部・教務部が連携した、課外講習・補習の学年ごとの講習の更なる充実。
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H30:85.6% R1:83.6% R2:78.3%→R5:80%超)
- (4) オンライン学習の校内体制の構築
ア ICT を活用した授業実践に向けた教員研修に実施や好事例を共有する。
* 教員向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(→R5:90%超)

2 高い志をはぐくみ、すべての生徒の進路実現をめざす

- (1) 生徒に自らの将来像を描く力を育成し、モチベーションの高揚を図るキャリア教育の充実。
ア 社会で活躍している卒業生や第一線で活躍している人材による講話の充実。
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H30:87.9% R1:88.6% R2:88.6%→R5:85%超維持)
- (2) チーム泉陽による生徒支援体制の確立。
ア 高大接続プロジェクトチーム (KSP) を活用し、教育産業と連携して生徒学力の分析会を実施する。統合 ICT を活用した情報の共有化。
イ KSP による進学指導力向上のための模試・学力生活実態調査の結果分析会の充実。
* 生徒・保護者向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。
(H30:生徒 86.9%・保護者 89.4% R1:生徒 87.6%・保護者 87.1% R2:生徒 89.1%・保護者 84.0%→R5:85%超維持)
* 現役で国公立大学に合格する生徒の在籍者数に対する割合 (H30:32.4% R1:34.0% R2:41.3%→R5:40%超維持)
ウ スクール・カウンセラー、スクール・ソーシャルワーカー等の外部人材の活用による教育相談体制の充実。迅速な生徒情報の共有化。
* 総欠席日数を前年度比5%ずつ減少させる。(H30:4764日 R1:4249日 R2:3325日→R5:3300日以下)
- (3) 第4次大阪府子ども読書活動推進計画に先駆け読書活動を推進し幅広い教養を育成する。
ア 朝読や授業での学校推薦図書「泉陽の500冊」の活用による読書習慣の確立。
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率を毎年3%ずつ引き上げる。(H30:52.4% R1:45.8% R2:54.2%→R5:60%超)

3 人としての豊かな見識と情操を育てる

- (1) リーダーシップ、パートナーシップ、協力協働の社会的精神の育成。
ア 「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動の持続と学習時間の保障。
* 部活動参加率90%超を維持しながら学力の向上をめざす。(学力生活実態調査における学力・学習平均レベルA3に)
イ 「自主的な学校行事」の促進。
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H30:96.3% R1:94.2% R2:97.4%→R5:90%超維持)
ウ 堺市堺区や堺警察と連携した、清掃活動・ボランティア活動の推進。
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H30:82.2% R1:81.8% R2:85.2%→R5:80%超維持)
- (2) 「道徳教育推進教師」を中心とした道徳教育の充実による、豊かな人権感覚・望ましい生活態度・社会のリーダーにふさわしい感性と情操の育成。
ア 教育活動全体を通じた人権感覚の醸成。
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H30:76.4% R1:79.9% R2:79.9%→R5:80%超)
イ 「遅刻ゼロ」運動、「自分からあいさつ」の推進。
* 遅刻総数を前年度比5%ずつ減少させる。(H30:1658回 R1:1797回 R2:1346回→R5:1500回以下)
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H30:89.3% R1:90.7% R2:91.1%→R5:90%超維持)
ウ 多様性を育み、論理的にものごとを考えて自分の考えを的確に伝えることのできる力の育成。
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率を維持する。(H30:64.6% R1:70.5% R2:77.0%→R5:75%超維持)

4 チーム泉陽として課題解決にあたる教員集団の確立

- (1) 学校の教育課題に対して全員で取り組む雰囲気醸成。
* 教職員向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率を毎年3%ずつ引き上げる。(H30:60.9% R1:57.1% R2:64.4%→R5:65%超)
- (2) 質の向上・平準化による業務の効率化。
* 教職員の時間外勤務時間を前年度より減少させ、月80時間以上の職員をなくす。(H30:35時間10分 R1:31時間50分 R2:29時間11分→R5:30時間未満)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 グローバル社会を生き抜く高い学力の育成	(1) 学力向上の進捗を確認できるツールの活用 (2) 教員の授業力の向上 (3) 泉陽プレミアム・プレミアム+の組織的な実施 (4) オンライン学習の校内体制の構築	(1) ア 「考査振り返りシート」・「ポートフォリオ」を活用した PDCA サイクルによる学力の向上。 イ 学力定着度を測るための指針としての全国模試の活用。 (2) ア JKP を活用して「主体的・対話的で深い学び」の在り方について研究し、授業で実践する。 イ 各教科での研究授業だけでなく、教科を超えたテーマ（ICT、AL、座学、実技）による研究授業の実施。小・中学校への授業見学の実施。 (3) ア・教科・学年・学校全体としての組織的に講習・補習を実施する。 ・各教科で最終目標を設定した上で、授業以外に必要な内容を講習として設定する。 (4) ア ICT を活用した授業実践に向けた教員研修をや好事例を共有することで教員の授業力を図る。	(1) アイ 生徒向け自己診断「考査や模試の結果をふまえ、次の学習に活かしている」をの 80%維持。[80.3%] (2) ア 生徒向け自己診断「自分の考えをまとめたり、発表する授業が多い」の肯定率を上げる。[65.26%] イ 生徒向け自己診断「教材や考え方に様々な工夫をしている先生が多い」の 80%超維持。[83.3%] (3) ア 生徒向け自己診断「理解度に応じて補習や講習が行われている」の 80%超維持。[85.9%] (4) ア・教職員向け自己診断「教材や教え方に様々な工夫をしている」の肯定率 90%超維持。[95.4%]	
2 高い志を高くくみ、すべての生徒の進路実現をめざす	(1) 将来像を描く力の育成 (2) チーム泉陽による生徒支援体制の確立 (3) 読書活動の推進	(1) ア 生徒のロールモデルとなる卒業生や社会の第一線で活躍している人材による講話を実施する。 (2) ア KSP による教育産業と連携して生徒の学力分析会を実施し、統合 ICT を活用して情報を共有する。 イ KSP による教職員研修を実施し、教員の進路指導力の向上を図る。 ウ SC・SSW 等の外部人材の活用による教育相談体制の充実と生徒支援のための各種研修の実施。 エ 検診結果などを学年通信や HP に掲載することで、保護者の健康面に対する生徒支援意識を高める。 (3) ア 朝読や授業で学校推薦図書「泉陽の 500 冊」の活用や、図書室を充実させて読書習慣を確立する。	(1) ア 生徒向け自己診断「本校の進路指導は将来の進路や生き方に役立つ」「社会で活躍するリーダーの話を聞くことは有意義である」の 80%超維持。[85.2%、85.5%] (2) アイ・現役国立大学合格者の在籍者に対する割合の 40%維持。[41.3%] ・自己診断「各種説明会や大学の見学会は進路を選択する上で役に立つ」の 85%超の維持。[生徒 88.3%、保護者 90.7%] ウ 総欠席数の前年度比 5%減少。 [3325 日] エ 保護者向け自己診断保健に対する情報提供の肯定率を上げる。[80.8%] (3) ア 生徒向け自己診断「読書する習慣がある」をの肯定率を上げる。[54.2%]	
3 人としての豊かな見識と情操を育てる	(1) 協力協働の社会的精神の育成 (2) 社会のリーダーにふさわしい感性と情操の育成	(1) ア 進学校にふさわしい学力保障を前提に、部活動や学校行事に打ち込める環境づくりに努める。 イ 「自主的な学校行事」が行えるよう、学校行事に対する生徒の自主的関与をさらに深める工夫を行う。 ウ 堺市堺区や堺警察と連携し、生徒会や部活動ごとのボランティア活動や清掃活動を推進する。 (2) ア 「泉陽あったかマップ」に従った人権 HR や体験学習を実施する。 イ 「遅刻ゼロ」運動を全校統一して指導を行うことにより遅刻を減少させる。 「自分からあいさつ」を推奨するため、教職員が率先してあいさつを行う。 ウ 行事等の自主運営などさまざまな機会を活用し、多様性を育み、論理的物事を考える力、自分の考えを適切に伝えることのできる力の育成に努める。	(1) ア 生徒向け自己診断「学習・部活動の両立ができている」の 70%超維持。 [72.9%] イ 生徒向け自己診断「文化祭・体育祭は生徒の力で自主的に運営されている」の 90%超維持。[97.4%] ウ 生徒向け自己診断「社会に役立つ有為な人材を育成しようとしている」の 80%超維持。[85.2%] (2) ア 生徒向け自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」を 80%以上にする。[79.9%] イ 遅刻総数前年度比 5%減少 [1346 回] 生徒向け自己診断「あいさつやマナーを守る指導を行い、モラルを守る態度を育てようとしている」の 90%超維持。[91.1%] ウ 生徒向け自己診断「論理的にもの考える力、自分の考えを的確に伝える力が身についた」の 75%超維持。[77.0%]	
4 あたる教員集団の確立	(1) 全員で取り組む雰囲気醸成 (2) 業務の効率化	(1) ア グループワークによる自主的な研修を計画する。教科・分掌の枠を超えたミーティングを定期的実施する。 (2) ア 「働き方改革」に基づいて、学校閉庁日・全校一斉退庁日を設置する。「部活動の在り方に関する方針」に基づき部活動における長時間勤務を縮減する。	(1) ア 教職員向け自己診断「学校の教育活動について、教職員が日常的に話し合っている」を 60%超維持。[64.6%] (2) ア 教職員の時間外勤務時間を前年度より減少させる。[29 時間 11 分]	